

異国に生まれ育って

あるカレン難民女性の
生き方

フォトジャーナリスト
宇田有三

ビルマの現状が報道される
とき、それは現在の軍事政
権に対し、非暴力の民主化運
動を続けるアウンサンスーチー
氏が話題の中心で、密林地帯
で武装抵抗を続けている「民
族集団」の存在に触れられる
ことはあまりない。

数百キロに及ぶタイ・ビルマ
(ミャンマー)国境には、およそ
10カ所のカレン人難民キャンプが

えのない質問を彼に突きつける。

「お父さんはビルマ人のすべてを
否定してしま。私はビルマの軍隊
や兵士は嫌いだが、村に住む、
普通のビルマ人とはうまくやっ
ていける。ビルマ人であろうと、
カレン人であろうと、私は戦
争は嫌いだ。タエポーはそう
言う。」

彼女には、封建的なカレン社会に
嫌気を感じてキャンプを飛び出
した2歳年上の姉がいる。今は英
国人と結婚して、タイの首都バ
ンコクに住む。その姉が私によく
話してくれた。

「ビルマ軍政府に対して抵抗運
動を続けているKNUも結局、男
性中心の世界だ。カレンの男
たちは、少数民族による会

点化する。そこには、半世紀以上
に及ぶ内戦やビルマ政府軍による
迫害から逃れてきた約10万人の
カレン人が不自由な生活を強
いられている。

難民キャンプには、自治権獲得
のため徹底抵抗を続けるカレン
民族同盟(KNU)の支持者もい
れば、長期にわたる戦争のため、
単純にもう戦争はイヤだとい
う者もいる。また、祖国への帰
還を夢見る旧世代もいれば、タ
イ側の難民キャンプで生まれ育
ち、ビルマに対してそれほど愛
着を持っていない若い世代も
いる。北の難民キャンプで知り
合ったカレン女性・タエポー
(23歳)も後者のひ

とりであった。

寒さで身を震わせ、何度目も
目を覚ました。1月末のタイ西
北部の密林地帯。日中の気温は
35度を超えるが、深夜から夜
明けにかけて、急激に冷え込
む。厚手の防寒用ジャケット
を身に付け、毛布を二枚重ねて
なんとか寒さをしのぐ。それで
も身体が冷えて眠れない。

交通の便が良く、外国からの
援助物資が届きやすい国道沿
いの難民キャンプが多い中、タ
エポー一家の住むキャンプは、
雨季の半年間、外の世界から遮
断される山奥にある。タイ側の
難民キャンプで生まれ育ったタ
エポー

「でもこの家では、カレンの
伝統通り、お父さんは家の中
で威張っているのだらう。」

私がそう言うと、彼女はただ
微笑みだけだった。そばにいた
母親ミヤイポー(50)は、声
を上げて大きく笑った。娘のし
つけには厳しい母親だ。

「タイに住みたければ一刻も早
くビルマに戻りたい。タイには
住めない。」キャンプ内の女性
のリーダー役を務める活発な
女性だが、決して出しゃばる
ような真似はしない。

タエポーといろいろな話を
したが、決して話題にできない
ことがあった。それは、彼女
自身の夢を語るに危険を冒
して難民キャンプから抜け出
す以外

「は、ビルマ・カレン州に足を
踏み入れたことはなく、3世
代も続く民族闘争を完全に理
解することはできない。過酷
なジヤングルの中で戦闘を
続けてきた父親」⁵⁸は、ビル
マ人に対しての憎悪を隠そう
としない。

「カレンの伝統文化を守る
ためには戦い続けなければ
ならない。カレンの土地の
開放を」「ビルマ人は全く
信用ならない。これまでの
カレン人に対する抑圧の歴史
が証明しているじゃないか。」

自らの厳しい歴史を、す
ごい剣幕で、私に話す父親。
「じゃあ、どうすればいい
のか」と、私は答

に、タエポーたちには将来の
道が開かれていない。生まれ
て以来ずっと、紛争の影響
の下で暮らしてきた彼女に、
何を聞いたとしても、その
答えはむなしく響く。

ビルマ国内での生活を体験
してきた親の世代は、再び
故郷での暮らしを夢見て、
今の難民生活の厳しさに耐
えることができる。では、
彼女たちのように異国の
難民キャンプで生まれ育
った者は、何にすぎれば
苦境を乗り切ることが
できるのだろうか。

彼女を撮影し続けた6年
間たった。少女から大人の
女性へと変わったタエポー。
フィルムには、ぼんやりと
何かを見つめている姿が多
い。彼女の視線の先には
いったい何が捉えられて
いるのだろうか。

自由恋愛をして結婚した姉や妹とは異なり、タエポーは自分の結婚相手を母親に決められた。親の家のすぐ横に2人の新居を構えたタエポー。子どもに乳をやりながら、昔ながらの癖で今また、ぼんやりと何かを見つめている。

この世に生を受けるとき、誰もが時代・地域・性・民族・国籍を選ぶことはできない。彼女たちの発する一言ひとことからそのことにあらためて気づかされた。常に戦争と隣り合わせの生活。個人をしばりつける様々な制約がここでは、はつきりに見える。

「非常事態だから、戦争中だから…云々」。いろんな理由で、どれだけ一人ひとりの尊厳が踏みじられてきたのだろうか。

一方で、選択肢があるがゆえにストレスが多い、我々の暮らしもある。何が同じで、どう違うのか。タエポーの視線の先にその答えを求める自分の姿に気づいた。



タエポーとはカレン語で生姜（タエ）の花（ポー）を意味する。結婚を4ヶ月後に控え、未婚女性をあらわす白い民族衣装「シモア」を身につけたタエポー。



子供が産まれて大人っぽくなったタエポー。夫（右）は現金収入を求めて、危険を冒してタイの首都バンコクに出かけていく。違法労働者に対する取り締まりが厳しいタイ・ビルマ国境の検問で摘発されると、夫の身はどうなるか分からない。



山奥の難民キャンプでは子どもも貴重な働き手。雨季に備え薪を運ぶ女の子。隣近所の手助け合いも当たり前。この女の子の家は子沢山。そのせいか、よくタエポーの家にご飯を食べに来ていた。

戻る

トップ